

# 精神障がいのある親と暮らす学齢期の子ども達を学校でどう支えるか

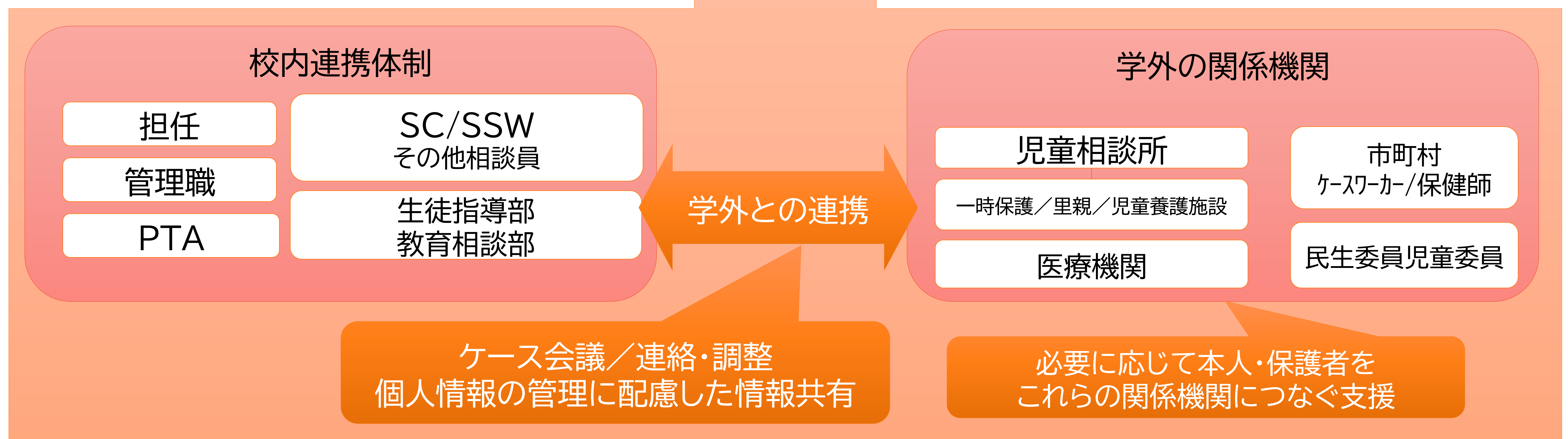
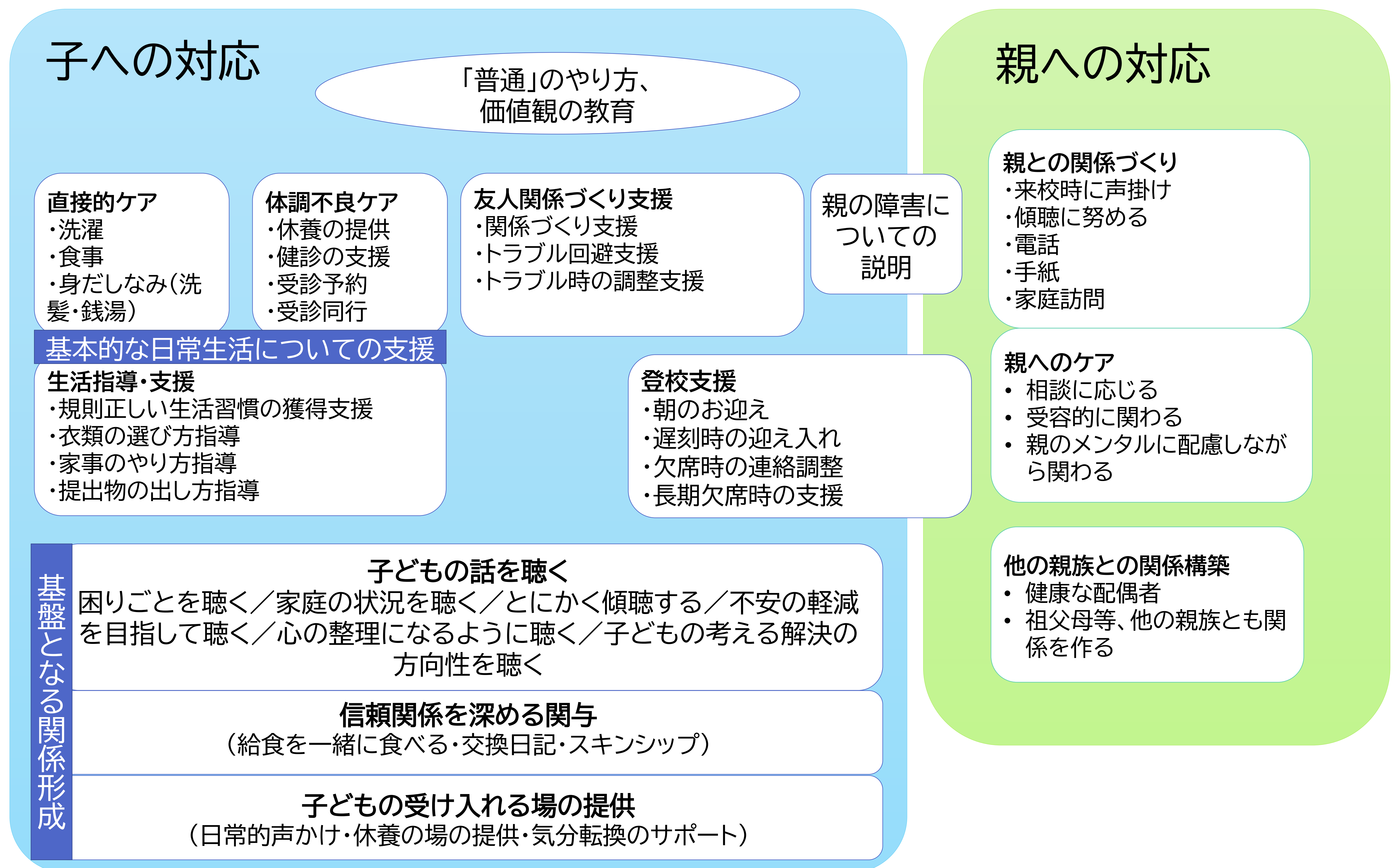
長沼葉月(首都大学東京)、上原美子(埼玉県立大学)、吉岡幸子(帝京科学大学)

## 目的と方法

【目的】精神障害のある親と暮らす子どもに対する支援は、就学前は母子保健ネットワークで支えられるが、就学後は学校が中心となる体制に移行する。本研究では学校ではどのように子どもや親への支援が提供されているのかを明らかにすることを目的とした。

【方法】A県の全公立小中学校1233校のうち、2016年4月1日時点で休校中の4校を除1229校に同年10~11月にかけて無記名自己記入式質問紙調査票を送付し養護教諭に回答を依頼した(首都大学東京研究安全倫理審査委員会による承認済)。精神障害のある親と暮らす子どもに対してどのような支援を行ってきたかを自由記述で尋ねた。468校から郵送法にて回収した(回収率38.1%)。自由記述内容をKJ法を援用して整理した。

## 結果



## 結論

学齢期の子どものおかれた状況を把握するためにも、親や子どもとの関係形成に力点が置かれていた子どもに対しては、教育だけではなく、基本的な日常生活面での支援や、不登校の際の家への送迎を行っている事例さえもあった

校内連携に加えて、学外連携が重要となっていたが、学外連携先は相談機関が多く、直接サービス提供機関はほとんどなかった子どもや親の日常生活支援や登下校の送迎など、生活福祉サービスの充実が期待される